

様式3 まとめ(自己評価および学校関係者評価)

坂戸市学校評価システム

## 令和4年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立坂戸中学校
実施日	令和5年2月20日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	○校長が朝会や学校だよりで示している「坂中スピリット」が生徒の中に浸透してきたことは評価できる。次年度は生徒が実践できる取組を行っていく。 ○校長が特色ある学校づくりを目指して経営ビジョンを明確化し、職員及び保護者に示した。 ○学校だよりを保護者及び地域に配布し、学校の教育活動を地域の方々に知っていただいていることは評価できる。 ○校務分掌の偏りをなくすため、校務分掌一覧表を作成した。職員全体組織のバランスがわかり、今後役に立つ取組になったことは評価できる。 ○校務分掌の偏りを解消するために、授業数も含めて協議していく。	A	○坂中スピリットが生徒に浸透していることが体育祭など行事を見て伺えた。仲間を思いやり、協力して取り組み様子が見られ、自らの目標に組織的に取り組む生徒が育成されている。 ○公教育の枠組みの中で特色を出すのは難しいと拝察します。保護者側の関心度はわかりませんが、経営ビジョンが明示され、折に触れて伝えられており、先生方も同じ方向にベクトルが向いていると感じとれます。 ○学校の経営ビジョンが明示されている。今後の課題は、具体的にどのような手法で生徒たちの実践を促していくか。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	○定期的に避難訓練を実施することはできた。今後、竜巻等、様々な自然災害に対する避難訓練の仕方を研修し、実施していく。 ○今年度はコロナの関係で外部からの指導者を招聘することはできなかったが、次年度は状況を見極め、外部からの講師を招き、消火ポンプ、避難袋等を用いた研修、避難訓練等を行っていく。 ○交通事故や不審者に対する対応について、外部から講師を招き、安全教室を行っていく。	B	○危機管理体制などはある程度構築されていると伺えます。全く想定外という事態もあるので、マニュアルに頼らず柔軟に対応できるようにしておくことも大事だと思います。 ○風通しが良く、開かれた学校という印象がある一方で、部外者が容易に校内へ入ってしまう状況もある。門などに防犯カメラや防犯を意識させるような対策が必要かもしれない。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	○年度当初より、ノー残業デーを設定し、職員に意識をもたせることができたことは評価できる。 ○毎週実施している「生徒指導部会」「教育相談部会」を隔週にするとともに、充実したものにするによって、業務内容を軽減できたことは評価できる。 ○行事の精選を行うとともに、業務が勤務時間内で終了できるように教育課程を編成したことは評価できる。 ○学年だより、学級通信が教員の負担になっている場合もあるので、発行頻度を検討し、負担を減らしていく取組が必要である。	B	○先生方は日々教育活動に精励されており、敬意を表します。働き方改革は現場ではどうにもならないことも多いと思うますが、職場の風土なども含め、学校全体、教職員個々の両面から不断の改善に努めて頂きたい。 ○勤務時間が長い。教職員の意識の差が大きく、引き続き意識改革が必要と感じる。 ○難しい課題だが、そもそも先生方の作業量を効率化させ、減らす工夫が必要だと考える。外部ボランティアなど、地域の力を継続的に活用して、負担を減らしていくなど、少しずつできることから取り組んでいって欲しい。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。 (市共通項目)	B	<p>○「主体的・対話的で深い学び」の研修を行うことができ、教員の意識の向上を図ることができた。次年度は、さらに研修を推進し、授業改善に努める。</p> <p>○国や県の調査を活用し、授業改善に取り組んでいることは評価できる。さらに、分析のための教科部会を開き、授業改善に活かしていく。</p> <p>○Hyper-QUを計画通り、年2回実施することができ、結果を学級経営、生徒一人一人の対応に活かすことができた。県学力学習状況調査も含め、さらなる活用方法についての情報を収集し、有効活用に努める。</p>	B	<p>○授業を拝見した際もタブレットなどを活用し、いろいろな創意工夫をされていることが伝わってきます。釈迦に説法になりますが、生徒達に学ぶことに対する納得感を与えることも、今後の成長を促す上で必要なことだと思いますので、意を用いていただきたい。</p> <p>○PCや電子黒板を使用した授業も効果的に行われていた。</p> <p>○子どもたちの学びの意欲や、先生の教え方に大きな影響を受けると思う。おもしろい授業、興味をそそられる授業は、その科目を好きになる大切な要因。それぞれ先生方にもポリシーや考えがあって当然だが、根本的には子どもたちやその科目、また学ぶことが楽しいと思えるということが最大の目的ではないだろうか。その意義を全ての先生たちに共通認識としてってもらいたい。</p> <p>○授業訪問を行い、生徒が主体的に発表し、学び合いをしている様子が伺えた。</p>
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	<p>○道徳の授業を担当だけでなく、学年職員全員で指導を行い、生徒は多くの先生から指導を受けることができた。</p> <p>○生徒は礼儀正しく、清掃の反省会も丁寧に行うことができている。授業も真面目に受けようとする姿勢を感じることができる。</p> <p>○数学、保健体育で少人数指導を行っており、個に応じた指導を行うことができている。今後、どのような形で少人数指導を行うことが効果的か検討していく。</p> <p>○本年度実施した「平和講演会」は命の大切さを学ぶための学習になり、効果があった。</p>	B	<p>○生徒指導を行う前提として、先生方が心身ともに健康で元気であることが必要だと思います。生徒が多くの先生方と関わり、良い面を吸収して人間性の向上につながっていくことを願います。</p> <p>○学校訪問した際には生徒は元気よく挨拶してくれている。教員と生徒は笑顔で話しやすい雰囲気でのコミュニケーションをしている。</p> <p>○道徳の授業だけでなく、普段の学校生活の中でこそ、徳を積み、人間力を高める実践の機会であると思う。そういった実践を自然にできる取組をお願いしたい。</p>
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。 (市共通項目)	B	<p>○生徒は落ち着いた状況の中で学習に取り組んでいる。教員はこの現状に甘えることなく、意識を高めて取り組んでいく。</p> <p>○生徒は校内ではよくあいさつできている。教職員も生徒の手本になるように、率先して言葉遣いを正していく。</p> <p>○自分の意見を発表する力をつけていくために、4人組などの学び合いの授業形態を積極的に取り入れていく。</p> <p>○生徒一人一人の特徴を理解し、信頼に基づいた生徒指導を行っている。校内指導体制は整っている。</p>	A	<p>○学校を訪問した際には礼儀正しく挨拶をしてくれます。学校全体の規律や秩序とともに、授業の態度も落ち着きが感じられます。</p> <p>○廊下ですれちがうときなど、進んであいさつする生徒が多い。</p> <p>○坂中生は表向きの印象ではあるが、真面目で礼儀正しい印象をもつ。人間性の向上は、健全な環境と生活リズムに依存する側面があるので、引き続きご指導をお願いします。</p>
資	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。 (市共通項目)	B	<p>○倫理確立委員会ニュースを配布し、全教職員が教職員事故を身近なものとして捉えることができた。</p> <p>○倫理確立委員会を毎週行われている企画委員会時に行い、定例化を図った。また、教職員の情報交換ができた。</p> <p>○教職員事故防止チェックリストを定期的実施できたことは評価できる。</p> <p>○教職員が気兼ねなく互いに自分の考えを言える環境づくりを行っている。</p>	B	<p>○倫理面での研修やOJTなどしっかりと行われていると感じとれます。不祥事を防ぐために、風通しの良い職場づくりを意識していただきたい。生徒が起こすトラブルなども組織対応をお願いします。</p>

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
質の向上	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にす る態度で接している。	B	<p>○教育相談週間(二者面談、三者面談)において時間を十分にとり行うことができた。</p> <p>○欠席の多い生徒に対して担任、学年職員、さわやか相談員が連携し対応することができた。</p> <p>○不登校生徒に対し、リモート授業で参加するなど、支援の幅が広がったことは評価できる。</p> <p>○生徒が毎日書いている「やりとり帳」をその日のうちに担任が見てコメントを書き、生徒一人一人との関係を築く取り組みを行っている。今後も続けていくが、教員の負担にならない程度に進めていく。</p> <p>○今後、人間関係づくりや円滑なコミュニケーションのための研修を行っていく。</p>	B	<p>○個々の生徒にしっかり向き合っていると感じられます。先生方は神経も労力も要することと思いますが、各生徒の人格形成のベースとなりますので、しっかり寄り添っていただきたい。</p> <p>○生徒は教員の鏡である。</p>
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	<p>○1～3年次経験者が特別支援教育について研修を行った。ノーマライゼーションの理念に基づく教育が実践できている。</p> <p>○特別支援学級に所属している生徒一人一人の支援計画を作成している。</p> <p>○コロナ禍ではあるが、坂戸ろう学校との交流を行うことができた。</p> <p>○ユニバーサルデザインに基づく教室掲示を年度当初に確認し、全クラスで実践できることが重要である。</p>	B	<p>○学校全体で体制が整備され、各先生方の理解のもと、個々の生徒に向き合っていると感じとれます。</p> <p>○どのクラスにも様々な形で支援が必要な生徒は存在している。特別支援教育の研修を各クラスで実践していき、どんな生徒も取り残さない教育活動につなげて欲しい。</p>
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	<p>○月1度の安全点検は100%実施でき、危険箇所、修繕の必要な箇所の把握を行うことができた。修繕箇所については業者対応、教頭、担当での対応等、時間をかけずにすぐに対応できていた。</p> <p>○清掃用具の置き場、用具の点検をしっかりと行っていくことが大切である。</p> <p>○トイレが新しくなったので、トイレ掃除を充実したものにし、綺麗な状態を維持していくことが大切である。</p>	A	<p>○施設面は若干老朽化がみられますが、管理や清掃は行き届いていると思います。</p> <p>○荒れた雰囲気を醸し出すと教育上宜しくないと思いますので、美化だけはしっかり行っていただきたい。</p> <p>○AB通路の作品が定期的に交換されて、来校の楽しみである。</p>
家庭・地	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。 (市共通項目)	A	<p>○ホームページの更新が定期的に行われていることは評価できる。今後も継続し、充実したものにしていく。</p> <p>○不審者情報、防犯に関する情報等をマメールを活用し、家庭に提供できている。</p> <p>○コミュニティースクールとして、地域との連携をさらに進め、地域の力を学校の教育活動に活かしていくことが重要である。</p>	A	<p>○ホームページや学校だよりの回覧など、情報提供に努めていることは十分に伺えます。</p> <p>○家庭やPTAなどの関係に主眼を置いて、地域とは学校の負担にならない程度にチャンネルをもっていけば宜しいかと思ます。</p>

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
域との連携	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	<p>○図書ボランティアの方が毎週来校され、図書室の整理、掲示物づくり等行ってくださっている。今年度はコロナ禍で中断していた「読み聞かせ」を再開できたことは評価できる。</p> <p>○今年度はコロナ禍で、民生児童委員との話し合い等を実施することはできなかった。今後、コミュニティスクールの観点から、地域との連携を図っていく。</p>	B	<p>○地域人材との関係に十分留意されていることは伝わってきます。学校と地域(民間)とは認識や行動原理が違う場合もありますので、PTAや関係者、行政などと連携しつつ進めていただきたい。</p> <p>○図書ボランティアの活動を継続していることが素晴らしい。長く学校に関わっていただいている方がいることが、なかなか教職員に周知されていない。ゲストティーチャーなどで地域人材を活用していくことを進めて欲しい。民生委員との情報交換会も再開が望まれる。</p> <p>○先生方の負担軽減のため、ますます外部人材活用が求められる。。課題はネットワークの広げ方と信頼性の担保か。</p>
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	C	<p>○坂戸小学校、南小学校とは、小中連携のための教諭を通し、情報交換を行った。</p> <p>○現在の小中連絡会では、コロナ禍のため小学6年生から中学1年生へのスムーズな流れを中心に情報交換を行っているが、今後はさらに範囲を広げ、学校全体(全職員)での「教科」「領域」等の情報交換、情報共有、共通認識を進めていく必要がある。</p> <p>○個々の生徒については情報交換を行うことはできた。今後、直接でなくても、情報ツールのメッセージで可能な範囲で情報交換を小中で行っていく。</p> <p>○新しく導入されたタブレットの使用状況等、利用レベルの把握を行っていく。</p> <p>○スタディーウィークの検討を進めていくことが重要である。</p>	B	<p>○第三者としては認識しづらい課題ですが、小中間の連携のための情報交換や意思疎通はしっかりやっていただきたい。</p> <p>○もっと小学校の授業を各教科において視察する機会をもって欲しい。新入生保護者説明会と同時期に児童への直接説明する機会があってもいい。保護者だけが先に情報を得て、児童に伝えることでマイナスイメージをもつ児童もいると聞く。</p>
各種行事	14	各行事がそれぞれの目的達成のために充実した取組になっている。(坂戸中項目)	A	<p>○各行事の実施要項の目的の中に、学校教育目標を入れて提案することができた。</p> <p>○行事の精選を図るために、行事検討委員会を開催し、野菊祭を廃止した。行事に追われている状況をなくした。</p> <p>○各行事において、生徒個人の伸長、リーダーの育成等の目的をはっきりとさせるとともに、振り返りを行い、充実した行事にしていく。</p>	A	<p>○行事については厳選され過不足なく、それを創意工夫がされ行われていると感じられます。</p> <p>○生徒が主体となったり、生徒同士が協力・連携して行う機会としていただきたい。</p> <p>○コロナ禍ではあるが、工夫して様々な行事を行っていただきたい。</p>
健康体力部活動	15	生徒の健康の保持増進、個性の伸長が行われている。(坂戸中項目)	B	<p>○食育プログラムをしっかりと実施できている。給食において、食品ロスの観点から残食への取組等、給食委員会を含め、指導していく。</p> <p>○薬物乱用防止教室等、生徒の健康保持・増進のための取組が行われた。</p> <p>○部活動において、部費を徴収している部の会計報告等を確実にいき、説明責任を果たしていく。</p>	B	<p>○健康保持については、必要な取組が行われているものと感じ取れます。</p> <p>○個性の伸長のために、生徒同士の切磋琢磨を促すような視点も必要だと思います。</p> <p>○部活動については、保護者の希望も様々で運営が難しいと思うが、活動時間帯など市教委のルールを順守して欲しい。また保護者にも丁寧に説明していくことが必要と思う。</p>
教職員資質向上	16	教員が研修に取り組み、資質向上を図っている。(坂戸中項目)	A	<p>○コロナ禍ではあるが、少ない研修時間の中で、効率よく研修を行うことができた。</p> <p>○AED研修、エピペン研修等、命に係わる研修を確実に実施することができた。</p> <p>○Hyper-QUの研修を今後の教育活動に活かしていく。○様々な研修を行うことができていくが、今後は各教科、学級経営、学年経営に活かしていくことが大切である。</p>	A	<p>○第三者としては、評価しづらいが、研修やOJTなどをしっかり行き、教育技術やノウハウの継承や向上に努めていただきたい。</p> <p>○各種の研修がおこなわれていることは評価できる。今後現場で生かされていくことを期待している。</p>